

1 栄養教諭による食に関する指導

学校教育においては、知育・徳育・体育に加え、食育の推進が重要視されている。令和2年度から始まった学習指導要領の改訂の中にも食育の重要性がうたわれており、新学習指導要領ではさらなる食育の推進が求められている。

これを受け、本町では、栄養教諭が児童生徒に学級訪問指導による食に関する指導を実施している。栄養教諭は食育の中核として食のコーディネーターとなり、教職員と連携して、学級活動、給食時、教科等（家庭科、技術家庭科、保健、総合的な学習の時間等）で、専門性を生かした指導にあたる。

また、給食時には児童生徒と会食し喫食状況を把握することで、より良い献立作成やおいしく安全な給食づくりに役立てている。

食に関する指導の内容

小学校

栄養教諭とのT・Tによる授業

対象学年	推奨時期	主 題	準 備	内 容
1年生	5月～6月 3学期	きゅうしょくのひみつ	センターでの調理風景写真、大しゃもじ、ひしゃく	給食センターで給食を作っているところの写真や、使用している大しゃもじなどを見せ、給食やそこに関わっている人たちについて関心をもたせる。
3年生	11月	たんけん！食べ物の星	紙しばい、絵パネル	3つの食べ物の星を探検する紙芝居を見せ、食べものには大きく分けて3つのはたらきがあることを知らせる。
5年生	10月～11月	五大栄養素を知ろう	絵パネル、食品の絵カード	家庭科の単元と関連付け、五大栄養素について学ばせ、バランスの良い食事になるよう考えさせる。（家庭科と関連付け）

資料提供

対象学年	主 題	準 備	内 容
1年生	食べるしせいはだいじょうぶ？	絵パネル	絵パネルを使って、食べる姿勢が悪いと体によくないことを知らせ、食事マナーについて関心をもたせる。
2年生	はし使いマスターになろう	はし、大豆、黒豆、プラスチックケース、絵パネル	正しい箸の使い方を示し、豆つかみゲームを通して練習させ、正しい持ち方で食事ができるよう給食指導を行う。

4年生	いのちをいただきます	大型提示装置、 絵パネル	給食の残菜に目を向け、食べ物を大切に する心を育てる。食べ物には命があり、それ をいただいて私たちが生きていることを知 らせる。
6年生	朝ごはんを食 べよう	食生活学習教材 の冊子 大型提示装置	朝ごはんの働きと朝ごはんを食べること の大切さに気づくことで、進んで食べるよう 意識づける。(家庭科と関連付け)
特別 支援	給食を好きに なろう	食材や紙芝居な ど	給食を食べて元気になるよう意識づける。

中学校（基本的に養護教諭との T・T による授業）

対象 学年	推奨 時期	主 題	準 備	内 容
3 年生	6月～ 7月	お弁当を作ろ う	大型提示装置 献立作成プリ ント ICT 機器	お弁当の内容を考えた後、食事バラ ンスガイドを用いて、お弁当の内容が 自分にとって適量か確認する。

資料提供

対象 学年	主 題	準 備	内 容
1 年生	カルシウムを とろう	大型提示装置 骨の模型、食品の 絵、文字カード	カルシウムの働きを理解し、特に成長期 には重要であることを認識し、進んで摂取 できるよう意識づける。
2 年生	朝食を食べよ う	大型提示装置 食品の絵	朝食と脳の働きに注目し、朝食の大切さ を知り、食べようとする意欲を持たせる。

上記の主題に沿った学級活動での食に関する指導、または教科等で（家庭科、技術家庭科、保健、総合的な学習の時間、生活科等）TT での指導のいずれかを学年ごとに選んでもらい実施する。

2 交流給食

給食センターでは、事業のひとつとして給食時に調理員等のクラス訪問を計画している。児童生徒と調理員等の交流を通し、安全でおいしい給食作りに生かすとともに食育の推進を目的としたものである。実施時期については食育月間の6月に希望制で実施する。

3 食育だより 「いただきまーす」の発行

毎学期に一回、献立表の裏面に印刷し、家庭に配布する。

給食献立と関連付け、私たちの住む愛知県や東郷町の歴史、食材、文化や伝統に対する理解と関心を深められる内容とする。

テーマ：愛知の食べ物を知り、郷土料理を味わおう

1 学期 愛知の食べ物を知ろう ～愛知を食べる学校給食の日～

2 学期 愛知の食べ物を知ろう ～秋の愛知を食べる学校給食の日～

3 学期 愛知の食べ物を知ろう ～全国学校給食週間～

＊ なお、毎月発行の「学校給食献立表」においても食生活の情報を提供し、食育だよりの補完を図る。

4 献立作成の重点目標

- (1) 家庭の食事で不足しがちなカルシウムに注目し、特にカルシウムを多く含む献立には献立表に★マークをつけ、食生活の改善に向けたアピールを行う。
- (2) 季節感を盛り込めるよう野菜や果物、魚等の食品の使用に配慮する。
また、年中行事などにちなんだ献立を取り入れ、食文化の啓発と伝承を図る。
- (3) だしは天然だしを使用するなど不必要な食品添加物を避け、食の安全を確認する。
- (4) かみごたえのある食品を使用する「かみかみメニューの日」を設け、かむことの大切さをアピールする。
- (5) 県内産・町内産のものを取り入れ、地産地消を推進する。また、有機農産物を生産状況に合わせて、取り入れる。

5 食物アレルギーをもつ児童生徒への対応

該当の食品を含む献立内容の詳細を、学校を通して家庭に配付している。生活管理指導表の提出を必須とし、保護者と学校でアレルギー情報の共有を図り、事故等の予防に努める。また、乳・卵・小麦アレルギーのデザート代替食の提供を行う。

6 セレクト給食の実施(学期に1回)

主菜とデザートを選ぶことにより、給食時間をより楽しいものにしながら食品や栄養に対する関心を深め、健康づくりへの体験の場とする。また、内容については、できる限りアレルギーに配慮した物資を選定していく。

7 応募献立入選作品の実施

学校給食への参加意識を高め、食べることの楽しさを共有する場を設けることを目的とし、令和7年度は令和6年度に児童生徒より募集した「愛知のめぐみたっぷり！我が家の自慢料理」の入選作を、毎月1献立ずつ実際の給食で再現していく。

また、令和7年度も献立を募集し、献立委員会で入選作品を選定する。入選作品は、学校給食で実施する。

8 リクエスト給食の実施

中学3年生を対象にもう一度食べたい給食のアンケートを実施し、得票数の多かった給食を12月から2月に提供する。給食が学校生活の思い出の1つとなるようにしながら食品や栄養に対する関心を深める。